

学生の1日

MY CAMPUS LIFE



マネジメント工学科 3年
高橋 瑞季 Mizuki Takahashi



学生のうちに
宇宙ビジネスで
起業したい！

10:30
登校



英語を読んで
頭を活性化させ、
集中力を高めてから
登校します。

片道2時間の電車内は英語学習

通学中はアプリでのTOEIC®対策や、海外の英語記事のチェックなどに有効活用。私の最大の関心事である宇宙開発に力を入れているのがアメリカからです。

12:15
学食で
ランチ



友人と楽しいランチタイム

お昼ごはんは、ほぼ毎日ゼミの仲間と39号館2階の学食で。小腹が減ったら大好きなチョコレート。適度な糖分補給で頭の回転をよくします。

経営について深く学べます

リテールマーケティングや商圏分析などの経営戦略を研究。インターンシップ先でのヒヤリングや実務事例なども参考にしながら理解を深めています。

13:00
授業

[3・4時間目]
顧客販売戦略



10:40
図書館

集中するなら図書館へ！

図書館はレポート作成などで頻繁に利用。宇宙開発やプログラミング、起業などに関する資料収集にも役立っています。

18:30
アルバイト



週2回はプログラミング講師に

幼児から中学生までを対象にプログラミングを指導。生徒の理解度に合わせて臨機応変に対応しながら、自分の知識を再確認できるメリットを感じています。

17:00
研究室・ゼミ

水上祐治研究室



大切なのは戦略？人材？

起業や経営で重要な要素を学べる研究室に所属。宇宙ビジネスでの起業という、尖った研究テーマを尊重してくれて、多角的にアドバイスをいただいています。

15:00
自習

アプリ開発



ブラックホールをビジュアライズ！

過去には宇宙空間でのシューティングゲームを3DVRで制作。現在は「Unreal Engine」を駆使してブラックホールの仕組みの可視化に挑戦しており、CG技術の向上にも励んでいます。

好きな分野の勉強なら
一歩先へ！
みなさんも「好き」を
見つけてください！



SPR

ing

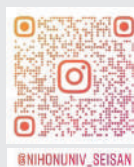
日本大学生産工学部【スプリング】2023 9月号



SPR / No.120
September 2023

日本大学生産工学部より
令和5年9月11日発行
編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記をお願いします。
〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1
日本大学生産工学部 庶務課
TEL.047-474-2201 FAX.047-479-2432
MAIL:cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp
HP:https://www.cit.nihon-u.ac.jp/



No. 120

学 部 長 メ ッ セ ー ジ
M E S S A G E
FROM THE DEAN



〔日本大学生産工学部 学部長〕

澤野利章

Toshiaki Sawano

生産工学部での貴重な学生生活により、
激変する新しい生活への転換に果敢に立ち向かう準備を。

令和5年度の学生生活スタート

政府による新型コロナウイルス感染症の取り扱いも感染症5類に変更となり、生産工学部では4月4日に新入生を迎え4年ぶりの対面による開講式を挙行し、オリエンテーション実施後、4月12日から予定通り授業を開始することができました。今年度は新入生1,614名を加えた合計6,850名の学生達が津田沼、実籾キャンパスへ通い、学生生活をスタートさせています。

本年度の授業は感染症拡大前の2019年度の状態にほぼ戻しています。またマスクの着用や検温、手指の消毒については個人の判断にゆだねることとしました。4月時点ではキャンパス内への入構者の9割以上がマスクを着用していましたが、日を追うごとに着用者の割合も減少してきております。学内においてはクラスターや爆発的な感染拡大は見られず、学生の皆さんも安心して学生生活を送れているものと思います。昨年度までとは全く違い、自由に学生食堂や図書館も利用でき、友達付き合いやサークル活動においても学生間の交流がいっそう盛んになり、本来の大学生の日常が取り戻していると安堵しております。

グローバル社会が求める技術者

我が国では少子高齢化による生産人口の減少が産業活動などの経済環境に大きく影響しています。加えて突然の新型コロナウイルス感染症の出現により、時代は急激な変化を強いられています。これらを克服するためには全世界的な改革が求められています。国連による持続可能な開発目標(SDGs)の提唱や、2030年問題として2017年度に発出された「超スマート社会」(Society5.0)の実現に向けた改革、ジェンダーバランス問題、ウクライナ侵攻に伴うエネルギー・食糧問題の解決、生成系AIの利

用に関する賛否などがあります。人々の生活や労働環境が大きく変わり、その環境に適応するための改革にはその分野のエンジニアが必要です。

生産工学部が育てる技術者

生産工学部では、「経営的視点で生産過程を俯瞰できる技術者の育成」を目指してきました。技術者は多くの知識と経験を積み重ねながら育成されるものであり、技術者として大切な「柔軟な考え方と感性」も同時に養われるものです。これらを涵養するために2022年度からの新カリキュラムにおいては、能動的な学修方法に重点をおいてリニューアルを進めました。生産工学部では「リベラルアーツ」と「イクスペリエンス」のサイクルを繰り返して回すことにより、「自ら考える力」と「自ら学ぶ力」を身に付け、それらを「経験」することにより専門分野に応用できる技術者を育成していきます。また、これまでと同様に学科の枠を超えた4BEの教育プログラムやPBLを多く導入した教育を進めます。さらにクォータ制(4学期制)を利用して、長期の国内外においてのインターンシップ、語学留学や海外研修などの海外渡航を推奨しています。加えて学部のみならず学修をより発展させ将来の仕事において自分のスキルアップが図れるよう大学院修士課程への進学も勧めています。これからの時代は大学院修了生としての活躍も大きな選択肢のひとつになると思います。

生産工学部ではひとりひとりが学生時代の「経験」を生かして、専門分野への応用ができる技術者となるよう育成してまいります。そしてどのような社会環境下においても責任ある行動をとることができる技術者としての素養を身に付け、自己を高め、さまざまな目標に向けて、挑戦していくことを希望いたします。

卒業生インタビュー

Interview

新型車両のブレーキシステムを設計。

大学院での学びを糧に、

技術者として更なる成長をめざす。

機械工学専攻を修了した島村さんは、
本田技研工業で自動車の開発に携わっています。
「まさか自分が自動車メーカーに就職できるとは思っていなかった」という島村さんに、
学生時代の思い出や
仕事のやりがいについて伺いました。

〔日本大学生産工学部 卒業生〕
本田技研工業株式会社 四輪事業本部
四輪開発センター ICE完成車開発統括部
車両開発一部 シャシー開発課

島村 未菜さん

Mina Shimamura

PROFILE

神奈川県出身。2010年4月、日本大学生産工学部機械工学科入学。大学院機械工学専攻修了後の2016年に、本田技研工業株式会社へ入社。現在は、主にブレーキシステムの設計・開発を担当。



SPR *ing* / No.120
September 2023
CONTENTS

- 02 学部長メッセージ
- 03 卒業生インタビュー
- 06 保護者向け学生の出席状況及び修学状況の案内について
- 07 就職状況
- 08 大学院
- 10 学科・系ニュース
- 15 新型コロナウイルス感染症5類移行後の学部対応



一番の思い出は「生産実習」。 大学での学びが 社会で役立つことを実感。

幼い頃から工作が好きで、高校生の時に大学でものづくりを学びたいと思うようになりました。いくつかあった進学先候補の中で日本大学生産工学部に決めたのは、慕っていたバレーボール部の先輩が入学していたから。機械工学科を選んだのは、車好きの父の影響です。現在も在籍されている栗谷川幸代先生の研究室で、「人の心理状態が車の運転に与える影響」の研究に携わったことが、自動車業界を志す直接の契機になりました。

私は津田沼キャンパスが大好きで、授業がない日でも研究棟のエレベーターホールのフリースペースを利用していました。そこで自習したり、友だちとおしゃべりしたり、そんなふうに過ごしていると、通りがかった先生がよく話しかけてくれて、授業中は堅物で気難しそうに見える先生でも、実は意外と気さくだったりして、そのギャップが面白かったです(笑)。ぜひ皆さんも、積極的に先生に話しかけてみてください。意外な一面に出会えると思いますよ。

学部時代の一番の思い出は、必修科目の「生産実習」(インターンシップ)です。私は3年次の夏休みに、発電装置などに使われる「ガスタービン」の開発会社で2週間ほど働かせてもらいました。授業で学んでいることが、実際に企業ではどのように活かされるのか。それがわかって、とてもいい経験になりました。その一方で、自分の知識不足や社会人として

の基礎力が足りないことを自覚させられて……この経験が大学院進学を決意するきっかけにもなりました。

就職活動を控えて、「このまま社会に出ても……」と悩むようになり、次第に「もっと学びを深めて経験を積みたい」と思いが強くなって大学院への進学を決めました。栗谷川先生も私の意思を尊重していただき、その応援が心強かったですね。

大学院での学びが大きな自信に。 自動車メーカーへの 就職を叶える。

修士1年目は、授業と研究で大忙し。家には寝るためだけに帰るという状態で、ほとんど“大学に住んでいる”という感じでした。

研究室は、もちろん栗谷川研です。学部時代の内容を継続・発展させて、たとえば、狭い道に入った時の運転者の心拍数などの生体反応を計測して、「不安・緊張状態の時にどのような運転サポート機能を車に搭載すべきか」という研究を行っていました。

2年目になると、栗谷川先生から「後輩のために、自分が自信をもってできることは何？」と聞かれて、「論文の書き方には少し自信があります」と答えたことを覚えています。それからは「自分が言ったことに責任をもとう」という責任感が芽生えて、後輩の論文やレポートの相談によく乗っていました。いま振り返ると、私に自信をつけさせるための、栗谷川先生の心遣いだったのだと思います。

大学院では、学部よりもさらに専門的な知識を学べるのももちろんのこと、セミナーの

参加や学会発表の機会も多いので、他大学や企業の方々との出会いを通じて、世界がグッと広がります。「後輩の指導」も会社に入れば誰もが経験することですし、私は社会に出るための準備期間として、大学院に進学して本当に良かったと思っています。

学部時代には自分が自動車メーカーに就職できるとは思いませんでしたが、大学院での一つひとつの経験が、「自分も何かをやり遂げられるかもしれない」という自信になりました。自分を大きく成長させてくれた2年間だったと思います。

大学の学びに無駄はない。 いまでも昔の教科書や ノートを振り返ることも。

本田技研工業に入社後は、約10カ月の新人研修を経て、現在の勤務先である栃木の開発センターに配属されました。それ以来、自動車の土台である「シャーシ」の開発課で、主にブレーキシステムの設計・開発を担当しています。100人ほどいるグループメンバーのほとんどは男性で、女性は1割もいません。この環境は大学時代からあまり変わっていませんね。

新型車の開発は差はありますが、約4～5年ほどかけて開発していくのですが、パソコン内に図面としてだけ存在していたものが、少しずつ現実の“モノ”として形になっていくのが、この仕事の面白さです。初めて自分が開発を担当した車が発売された時は、やはり感慨深いものがありました。実家の母もその車を買ってくれて、身近な人に使ってもらえると喜びも



初めて開発当初から携った「N-ONE」では、ペダルと関連部品を主に担当

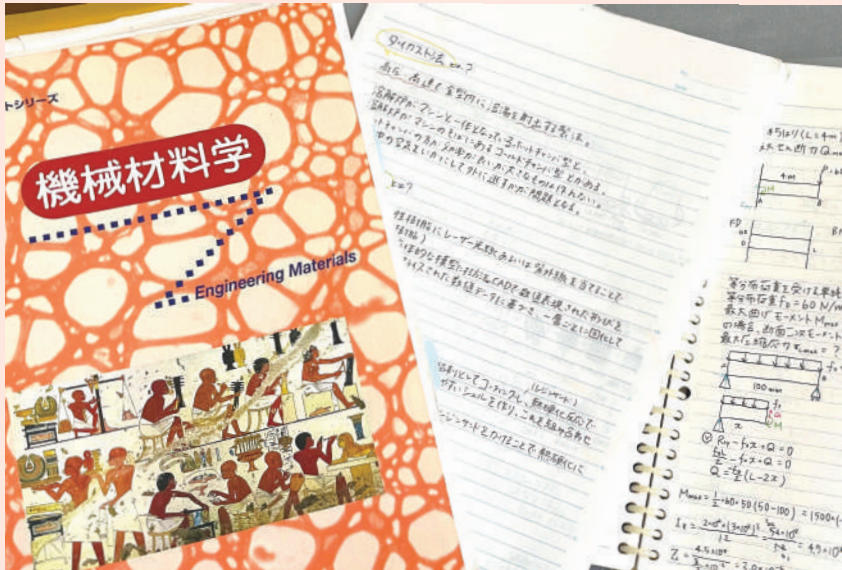
倍増しますね。父はもともと他社の車に乗っていましたが、私の入社後はすっかりホンダ車のファンです。

ブレーキ開発には、機械や部品そのものの設計・加工のノウハウだけでなく、「材料」や「熱・流体」、さらにはシステム制御といったソフトウェア領域の基礎知識も求められます。まだまだ知識不足、力不足を痛感させられることも多いのですが、先輩に教えてもらいながら、コツコツ勉強を続けています。それこそ大学時代に使っていた教科書やノートを引っ張り出して、当時の学習内容を振り返ることもありますね。

正直、大学時代は、「これ何の役に立つの?」と思いながら授業を聞いていたこともありましたが、いざ会社に入ってみると、「そういえば、これ習ったな」ということが多々ありました。大学の学びに、無駄なものはない。そのことを、いまあらためて実感しています。ですから皆さんも、あまり興味がない内容だったとしても「必ず将来、何かの役に立つ」という前向きな気持ちで授業を受けてみてください。勉強を継続すれば、必ずどこかに面白さを見出せるものです。

ブレーキ開発という重い、重い責任をともなう仕事ですが、「その分、やりがいも大きい」とポジティブな気持ちで頑張っています。皆さんも学生という貴重な時間を大切に、前向きに多くのことにチャレンジしてほしいと思います。

私は「大学生活をやりきった」という気持ちが強いのですが、唯一、心残りなのは海外



調べ物の際、実際に使用している大学時代の教科書やノート

に行けなかったことです。いまは海外のスタッフとコミュニケーションを取る機会も多いので、学生時代に英語をしっかりと勉強しておけば良かったと、少し後悔しています。大学には海外留学のサポート制度も充実していると思いますので、利用を検討してみてください。

世代を越えて卒業生が集まる 「女子会」を開催。 さまざまな情報交換の場に。

大学を卒業してから7年が経ったいまでも、卒業生同士の交流は続いています。機械工学科は特に女子が少ないため、卒業生を含めて女子同士のつながりが強く、「女子会」も毎年のように開催していました。現役生のほかに、機械工学科の大先輩でもある栗谷川先生のさらに大先輩まで、幅広い年代の卒業生が20～30名ほど集まる食事会です。自動車関連をはじめ、ものづくりのさまざまな業界で活躍されている方が多く参加されるので、いい情報交換の場になっています。もちろん、仕事だけでなく、恋愛や家族の話もしますね(笑)。お子さんを連れて参加される方もいて、みんな和気あいあいと会話を楽しんでいます。コロナ禍でここ数年はお休みしていましたが、今年からぜひ再開してほしいと思っています。

私は自分に自信がなくて、大学院進学を選択しましたが、もし明確にやりたいことがあって、目標もきちんと定まっている学部生

は、就職を選択しても何も問題ないと思います。でも、将来に迷いがあって、学び足りないという気持ちがどこかにあるなら、前向きに進学を考えてみてください。

大切なのは、自分の可能性を否定しないこと。妥協しないこと。それぞれの立場やご家庭の事情があると思いますが、自分が納得できるまで、勉強に打ち込んでください。私も後輩の恥にならないようこれからも勉強を続けて、技術者としてさらに成長していきたいと思います。一緒に頑張りましょう。



保護者向け学生の出席状況 及び修学状況の案内について



本学部では、保護者の皆様が学生本人の出席状況及び修学状況を確認するために、「LINE公式アカウント」を入口として、「保護者向け情報掲載サイト」、「保護者ポータルシステム」を運用しております。上記のQRコードより、「LINE公式アカウント」にご登録いただくと各サイトへ簡単にアクセスできます。ぜひ、ご登録をお願いします。

▶ 保護者向け情報掲載サイトについて

保護者向け情報掲載サイトでは、最新のお知らせ、各サイトへのリンク、保護者ポータルシステムの案内、確認方法のマニュアルを掲載しております。

▶ 保護者ポータルシステムについて

保護者ポータルシステムでは、右記の内容を掲載しております。入学時の5月に案内しておりますID・パスワードにて、ログインしていただき、各メニューより、情報を確認できます。このうち、「授業出席情報」、「単位集計情報」の見方についてご案内いたします。

・授業出席情報	・保証人情報
・緊急連絡先情報	・成績情報
・GPA	・学生基本情報
・履修情報	・単位集計情報

▶ 授業出席情報の確認方法について(保護者ポータルシステム)

保護者ポータルシステムにログインし、「学生カルテ」⇒「出席情報」を選択して確認することができます。表示内容については、以下をご参照ください。 ※保護者向け情報掲載サイトに確認方法のマニュアルを掲載しております。

出席確認

開講情報

出席情報

授業状況について

出席状況について

学期	講義名	出席状況	出席率	出席状況
1学期	自主学習の推進(電気)	15	10/11	91%
2学期	経営外国語(中国語)	8	2/3	67%
3学期	経済学入門	9	2/3	100%
4学期	電気電子工学概論	8	8/8	100%

アイコン

ステータス

休	休講
補	補講
変	時間割変更

表示

ステータス

扱い

欠	欠席	欠席
出	出席	出席
遅	遅刻	出席
早	早退	出席
E	版数エラー	欠席
-	授業なし	-

▶ 単位集計情報の確認方法について(保護者ポータルシステム)

- 保護者向け情報掲載サイトから、キャンパスガイドのリンクを選択していただき「2023キャンパスガイド履修編」を選択してください。
- 以下の例示の各色の枠に記載の数字を、キャンパスガイドと保護者ポータルシステムそれぞれの画面と照らし合わせてご確認ください。

機械工学科 自動車コース									
科目名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
必修	11	12	13	14	15	16	17	18	19
選択	20	21	22	23	24	25	26	27	28
合計	31	33	35	37	39	41	43	45	47
卒業に必要な単位数	31	33	35	37	39	41	43	45	47
現在履修中の単位数	31	33	35	37	39	41	43	45	47
既に修得済単位数	31	33	35	37	39	41	43	45	47
卒業に必要な単位数	31	33	35	37	39	41	43	45	47
不足している単位数(履修中の単位は含みません)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※卒業するためには、キャンパスガイド及び保護者ポータルシステム記載の各年の卒業に必要な単位数を満たす必要があります。

例示の緑色部分の卒業に必要な単位数を満たすためには、青色部分及び黄色部分に該当する科目で2単位分余剰に単位を修得する必要があります。

※保護者向け情報掲載サイトに確認方法のマニュアルを掲載しております。

令和4年度就職状況

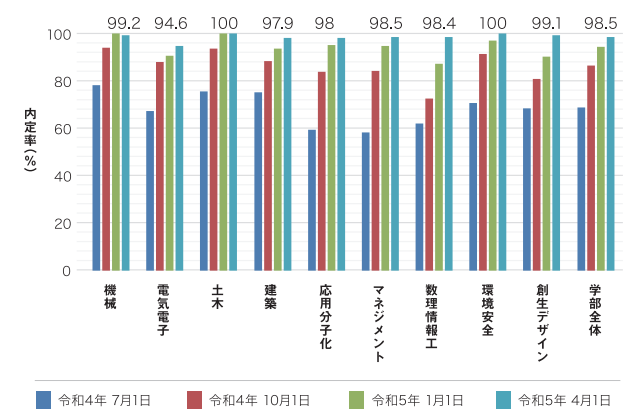
● 令和4年度の就職状況

文部科学省と厚生労働省の調査では、令和4年度の大卒理系の就職率は前年同時期から0.7ポイント増の98.1% (2023年4月時点)でした。さらに全体の調査結果より、国公立大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校のすべてにおいて就職率が前年度比で増加しており、依然として売り手市場であることが見て取れます。一方で、大卒の就職希望率は微減となっており、その原因として進学希望者の増加等が考えられますが、就職率はコロナ禍前の水準に戻ってきており、今後も同程度の水準を維持することが予想されます。

このような状況の中、生産工学部では昨年度はオンラインで開催した「学内合同企業説明会」を令和元年度以来3年振りとなる対面形式で開催し、生産工学部生の採用を希望する企業、約340社にご参加いただきました。また、企業の採用選考の早期化の影響もあり、学生が就職活動を始める時期も早まり積極的に企業説明会へ参加していることが窺えます。

その結果として、生産工学部の就職率は98.5%となり、全国平均を上回る結果を残すことができました。

図1> 各学科の月別内定率(学部生のみ)



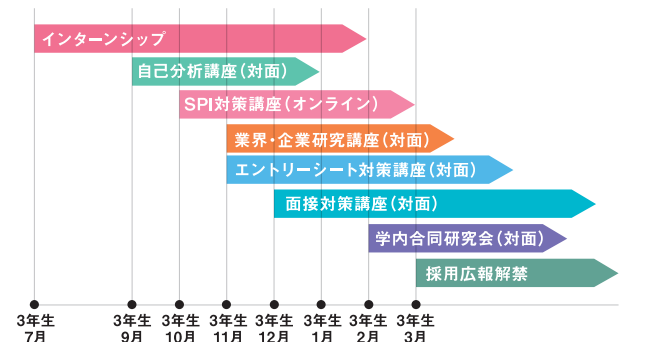
● 令和4年度就職活動の特徴

現在の就職活動は3年生夏のインターンシップから始まります。インターンシップは業界・企業を知るだけでなく、仕事を知る機会でもあります。生産工学部では、「生産実習」を必修科目として、70時間以上の実践実習を行っており、「働く」ということを他学部・他大学の学生よりも実感できる環境を作っています。

夏休み明けの9月からは本格的に就職活動の準備が始まります。翌年3月の就職活動解禁までに、自己分析、SPI試験対策、業界・企業研究、エントリーシート対策、面接対策をしなければなりません。

令和4年度の就職活動では、引き続きコロナ禍の中での活動となり、オンラインによる説明会や選考試験を実施する企業が多くなっていました。企業の採用担当者はオンラインでの企業説明や面接に慣れている一方で、学生側は不慣れな中での就職活動となり、早期に活動を始めた学生がより多くの内定を獲得する傾向があるように思われます。

図2> 就職活動の流れ



● 今年度の就職支援について

今年度の就職支援活動は、アフターコロナの社会情勢を考慮し対面・オンラインの両方を活用した就職講座や学内合同企業研究会等を実施する予定です。コロナウイルスの影響が弱まり、再びコロナ禍前の規模で説明会を開催できる機運が高まってきたことや企業の採用意欲が増していることから、より多くの企業や学生が交流できる機会を提供できると考えています。もちろん、就職活動の軸を考える自己分析やSPI対策などの実践的な就活支援も実施します。また、公務員志望の学生に向けた公務員試験対策講座や公務員試験ガイダンスも実施する予定です。

その他にも、就職指導課では履歴書やエントリーシートの添削、面接練習を行っています。就職活動において、採用選考の基本となる面接の対策は必須ですが、意外と面接練習ができる機会は少ないように思えます。履歴書やエントリーシートについても、就職指導を行っている第三者の視点から添削することでより完成度の高いものに仕上がります。就職相談なども受けていますので、就職活動についてわからないことがあれば気軽にご相談いただけたらと思います。これらの就職対策講座やイベントなど、就職指導課を利用して就職活動を有利に進めていただけたら幸いです。



大学院の紹介と 進学のスズメ

本学部ではキャリアデザインや生産実習などの授業を通して、卒業後の社会的・職業的自立心の醸成や大学から社会・職業への円滑な移行に必要な力を養う教育を実施しております。その上で、3年生後半から本格的に就職指導を開始し、希望する就職先に就けるよう支援を行っております。一方で、就職とは別に大学院への進学という選択肢もあり、社会における大学院修了者の占める割合が増加している現代を鑑み、ご子息様、ご息女様が社会人となり、より自己実現できる充実した人生を歩めるよう大学院進学もサポートしております。

大学を卒業すると学士の称号を授与されますが、その上には修士の学位が授与される博士前期課程（2年間）があります。**工学系大学の平均大学院進学率は約4割**、国立・有名私立では約7割で、有名企業の開発部や研究所には修士以上の学位を有する技術者や研究者が集まっているのが現状です。そのため、学士・就職と修士・就職では遥かに修士のほうが社会を生き抜くためには有利です。学費など経済的な理由で進学を躊躇するケースもあると思いますが、奨学金などのサポートシステムが充実しておりますのでご相談ください。是非、ご子息様、ご息女様の将来の選択肢の一つとして大学院進学を加えて頂きますようお願いいたします。

1 博士前期課程で何が得られるか

大学で学んだ基礎学力を応用した高度な専門技術や知識を修得できます。専攻横断型の科目を履修すれば専門知識に幅をもたせることも可能です。指導教員との研究結果に対するディスカッションを通して、企業が新入社員に求める能力の上位に常に挙げられているコミュニケーション能力を養い、学会シンポジウムでの発表でその力を試すことができます。また、研究室の研究活動においては、文献調査や研究結果を通して目的達成能力の研鑽や、卒業研究生に対する研究・実験指導を通してマネジメント力を養うことができます。これらの集大成として、修士の学位を得ることができます。学位は生涯有効な資格です。

大学院での 学び

- 建築工学専攻
- 博士前期課程2年
春日紅璃 吉野嘉一吉 川原隆平
- 博士前期課程1年
藤村憲汰 馬場祐希 赤石健太

私たちは、「持続的なまちづくりと地域コミュニティの相補関係」を共通のテーマとして、連携・協働して研究に取り組んでいます。「テラスハウス居住者の暮らしの変容と余暇志向性」では、居住者の改築・改修の実態、余暇活動、生活意識等を調査し、暮らしと地域コミュニティの関係の側面からテラスハウスの持続性について研究を進めています。「空き家と余暇志向の側面からみたまちづくり活動と地域コミュニティの関係性」では、空き家が地域コミュニティに及ぼす影響の側面から、地域主体のまちづくり活動とコミュニティの持続性について研究を進めています。「余暇志向からみた繁華街と地域コミュニティの相補関係」では、新宿ゴールデン街を対象に、繁華街と地域コミュニティの関係、生活・余暇意識の側面から、地域コミュニティと共生する繁華街の意義、持続性

について研究を進めています。

これらの研究では、自治体や地域組織等と連携・協働し、キャンパスを越えて取り組んでおり、研究の広がりから、テラスハウスの空き家を再生するプロジェクト（空き家からカフェへ）にも参画しています。大学・大学院で蓄積してきた知識、研究成果や経験を活かして課題を抽出し、課題に対する最適な解を創造し、企画→計画→設計→施工→運営のプロセスに係わっています。また、学外の設計競技にも積極的に参加しており、チームで協働して作品をまとめ上げていく創造的プロセスでは、都市・建築に正面から向き合い、楽しみながら取り組みます。学部・大学院、学年の垣根を越えて、チームで協働する姿勢が身に着きます。

「何かをしてみたい・取り組んでみたい」時には、自主的・創造的にそれを実現できる施

2 社会に出ると何が違うか

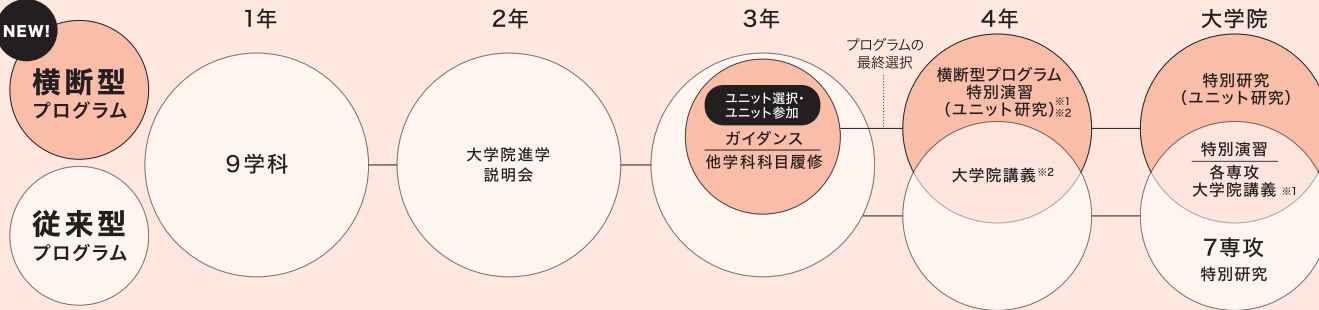
優秀な学生の大学院進学率の増加に伴い、企業等における大学院修了者の採用も活発です。特に、研究者（企業の研究所、大学との共同研究）になりたいと考えている場合は、大学院修了者が有利です。企業内研究の成果を纏めて博士号取得する道も開かれます。年収の面でも大学院修了者が有利だといわれており、厚生労働省の令和3年賃金構造基本統計調査によると、55～59歳の学士と修士の年収差は200万円以上（月額16～17万円）あり、管理職への登用が学卒同期よりも早いという卒業生の声もあります。教員免許では、大学院修了と同時申請により「専修免許状」を取得することができます。博士前期課程を修了した学生は、業界研究および社会に出る心構えが十分にできるので離職率が低いことも特徴的です。転職をする場合においてもキャリアアップのための転職が多く見受けられます。

3 新たに設置した横断プログラム

文部科学省中央教育審議会大学分科会は、Society 5.0等に向けた社会の変化の中で、大学院を知の生産、価値創造を先導する「知のプロフェッショナルの育成を中心的に担うことが期待される存在」、と位置づけています。また、大学院教育には、学部段階の教育との有機的な接続を図る3+3年の教育体制、体系的なコースワークの実施、分野横断型プログラムの構築も求められています。

本研究科では、従来型の大学院教育プログラムに加えて、新たな“横断型プログラム”を学生が興味に応じて選択できるようになりました。横断型プログラムは、学部4年生から先行して博士前期課程の教育を実施するプログラムです（図を参照）。【医療】【エネルギー】【環境】【農業】【防災】【宇宙】【材料】をキーワードに2専攻以上の教員が協働して研究プロジェクト（以下、ユニット）を立ち上げ、学生の受け入れ募集を行っています。

1 選べる2つのプログラム



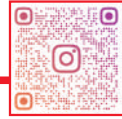
※1 ユニットメンバーの教員（複数学科で構成）の中から大学院の研究指導教員を選択します。指導教員の所属する専攻が学生の所属専攻となります（学部の所属とは無関係です）。

※2 4年次に一部の大学院設置科目を先行して科目履修することができ、取得した単位は進学後に申請を行えば大学院の単位として認定されます。横断型プログラムでは、大学院設置科目である「横断型プログラム特別演習」を4年次に科目履修します。

設・設備・空間・時間があり、建築専攻のみならず、異なる専門分野を横断する他専攻の先生方から指導を受けることもできます。大学院の魅力は、「夢に向かって想い・つづやきを実現できる」ことだと感じています。新宿ゴールデン街の名物ママにインタビューさせていただいた時、ご自身の人生を振り返りこう話されました。「振り返ってみた時、辛いことや、落ち込むことがなかったとは言えませんが、自分で決めたこと、やりたいことができたのですから、それに対して何の不満もありません。」とても素敵な想いに感じました。私たちも同じ想いとなるように、大学院での様々な経験を通して、持続的な都市・まち・建築の実現に携わる創造的なプロフェッショナルとして成長していきたいと思っています。



機械工学科



NICHIDAI.SEISAN.KIKAI

新入生オリエンテーション開催

本学科新入生と教員が参加する学外オリエンテーションを4月11日(火)に実施しました。今年度も千葉県富津市のマザー牧場にて、みんなでジンギスカンを食べて親睦を深めました。今後の学生生活で行動を共にする友人ができたのではないかと思います。



オープンキャンパス

6月10日(土)1回目のオープンキャンパスを実施しました。今年度は、来校型とオンライン型の同時開催で実施しました。炭素繊維対応3Dプリンタ、落花生莢を利用した複合材料、パートナーロボット、新しいロケット推進技術、エンジンと微小重力実験装置などを展示し、機械工学科の最新の研究と学びが体験できる企画を実施しました。当日の様子は機械工学科のInstagramや学科HPでも紹介させていただきましたので、ぜひご覧ください。



土木工学科



@SEISANDOBOK

200名の入学生、200×∞の絆、200とおりの大学生活がスタート！

土木工学科では令和5年度に200名の入学生を迎え、4月に開催されたオリエンテーション、6月のN-MIX、スポーツ大会等を通じて入学生間および学生・教員間の親睦を深めました。

今年度のオリエンテーションは、マザー牧場まで足を延ばし、豊かな緑に囲まれながら、ジンギスカンを囲み、チーム対抗のオリエンテーリングに汗を流しました。使い慣れない地図を頼りに、チームワークによってゴールを目指しました。対面で実施されたN-MIXでは、学部混成チームで「理想の大学ってどんなところ？」をテーマに議論を交えました。さらに、スポーツ大会では、本学科の得意種目である綱引きにおいて入学生のチームワークにより見事1位を勝ち取りました。

アフターコロナを迎えた昨今、各行事とも天候に恵まれ、本学科にたくさんの新たな絆が結ばれています。様々な経験を分かち合い、学び合い、技術者として成長される姿を楽しみに願っています！



新任教員紹介

土木工学科では令和5年4月より2名の新任教員を迎え、日本大学の強みを生かした生産工学部らしい教育・研究活動の充実に努めています。



建設材料学を担当します。前職30年の民間建設会社での経験を活かし、本学部学科の特徴である実学がより一層輝くよう貢献したいと念じています。放射性廃棄物処分の課題や宇宙開発に関連した材料研究に取り組んで参ります。よろしくお願いいたします。

杉橋先生



環境工学を担当します。これまで、主に国土交通省で下水道技術政策に携わってきました。下水道事業は土木、機械、電気、化学、経営等、多くの技術分野が関わるため、本学の強みを生かし、事業を取り巻く課題の解決にむけた研究、人材育成に取り組んで参ります。よろしくお願いいたします。

南山先生

本学科における教育・研究活動の一層の充実に向け、引き続きご支援、ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

電気電子工学科



@NIHON_U.AC.JP.CIT.EE

新入生学外オリエンテーションを実施しました

新入生と教員、および新入生同士の懇親を深めるための学科オリエンテーションが4月10日(月)に開催されました。津田沼校舎の校舎すでに散ってしまいましたが当日は天気もよく、新入生と教員は10台のバスに分乗して成田市のホテル日航成田に移動後、相談会と昼食会を行いました。緊張のためか行きのバス車内ではほとんど会話がなかった新入生も、美味しいランチを取りつつ歓談することで徐々に打ち解け、帰りのバスの中では隣の人と会話が弾んでいました。今年のオリエンテーションは授業開始日より前の実施となったため、新入生にとってはこれからの大学生活に向けて授業の相談もできる親しい友人を作る貴重な機会となったのではないかと思います。



令和5年4月より2名の教員が着任されました

電気電子工学科に東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センターから小川修一准教授と徳島大学理工学部から南康夫准教授が着任されました。小川先生は薄膜・表界面物性を、南先生は超高速光工学の研究をされています。着任以降、お二人の先生は講義、学生実験、卒業研究などを通じて学生の指導にあたられています。どうぞよろしくお願いいたします。



小川 修一先生



南 康夫先生

国家資格に合格しました

電気電子工学科4年の吉田靖典さんが電波法で定められている国家資格の第一級陸上無線技術士試験に昨年度末合格しました。大学3年生で合格した前例が少なく、吉田さんはこの資格の知識を活用することで現在、卒業研究にて新たな発見に挑戦しています。今後、吉田さんは大学院への進学を予定しており、ますますの活躍が期待されます。



電気電子工学科2年の五十嵐啓三郎さんが電気事業法で定められている国家資格の第三種電気主任技術者試験に合格しました。大学2年生での合格は本学のみならず全国的にも快挙であり、五十嵐さんは現在さらに上位の第二種電気主任技術者試験を目指しています。



建築工学科



@NICHIDAI.SEISAN.KENCHIKU

模型による「リアル」な体験：「特別演習II」

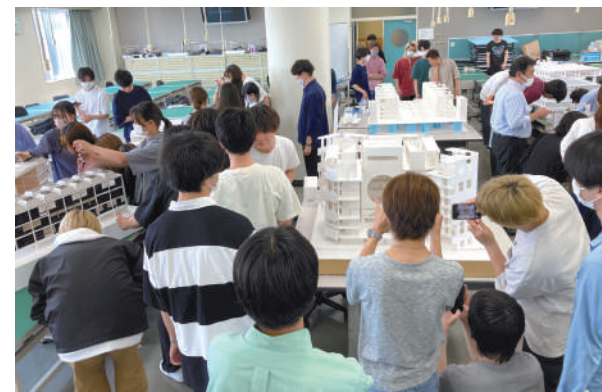
より深く設計に取り組みたい学生のための選択科目「特別演習II」が、今年から2年生の1クォーターに導入されました。この授業では近代建築の巨匠であるルイス・カーンの5つの代表作品をテーマにし、1/50スケールの模型を共同制作することを通じて、彼の空間創造の鍵となる考え方と空間のしくみを、身体的に理解しようと試みています。



学生の作成した模型の内観

実際のイエール大学
英国美術研究センターの内観
© 渡辺康

最終講評会では、学生たちはそこで模型を覗き込んだりスマホで写真を撮ったりし、歓声が上がりました。空間の強さ、光の取り入れ方、材料の使用方法、部分と全体の関係など、本物の空間のクオリティを実感することができたでしょう。絶対本物を見に行きたいと口々に話す学生以上に、教員が皆を連れてカーンを見に行きたいと思ってしまう、楽しく生き生きとした授業でした。



最終講評会の様子

応用分子化学科



NICHIDAI.SEISAN.OUKA

生産工学部 スポーツ大会優勝

6月17日(土)に天候にも恵まれ開催された生産工学部スポーツ大会において学科として初優勝の成績を修めることができました。1年生の団結力、学科のピアサポーターの方の協力がありこのような結果を修めることができました。今後もこの団結力を活かし、充実した学生生活を送れることを期待しています。



学科 インスタグラム開始

今年度より卒業研究に配属された4年生が中心となり学科のインスタグラムの運用を開始しました。学科内の紹介や化学に関する内容について投稿しています。今後は4年生だけでなく全学年から運用に加わって頂き、内容を充実させる予定です。



オフィス アワールーム完成

津田沼キャンパス29号館6階にオフィスアワールームが完成しました。自習やグループワークなどで活用できるような環境を整えています。また、オフィスアワーの時間帯に教員への質問などでも活用できる開放的なスペースとして活用しています。



数理情報工学科



NUSURIJOUHOU

マザー牧場で 学外オリエンテーション

新入生の親睦を深めるイベントとして、4月9日に学外オリエンテーションをマザー牧場で開催しました。1年生はほとんど全員が参加し、昼食にバーベキューをし、グループ活動でフォトアドベンチャーを行いました。フォトアドベンチャーでは最初の問題が難問揃いであったため、途中から教員が学生に助け舟を出すなど、和気あいあいとした雰囲気の中で、一気に学生と教員との距離も縮まったと感じました。途中で羊のショーを見たり、馬に餌をあげたり等、学生が動物と触れ合う機会もあり、楽しみながら友人を作ることでもできたと思います。



実習キャンパスでスポーツ大会

第1クォーターが終わった6月17日に実習キャンパスでスポーツ大会を実施しました。午前中は学科対抗戦があり、大玉ころがし、障害物競走、リレー等の競技で、教員チームを含めた全10チームで競い合いました。競技に参加する選手は、数理情報工学科の学科カラーである青色のシャツを着て競い十分で臨み、応援している学生も盛り上がり、これまで以上に絆を深めたと思います。リレーでアンカーの選手が2人追い抜いて好成績を残す等、各所で選手の活躍も見られました。



午後の部は自由参加ですが、学生の提案で、1年担任の伊東先生・藤田先生を交えた「教員・学生混合の数情チーム」がバレーボールに参加し、強豪渦巻中、協力して熱い戦いを繰り広げました。スポーツ大会を通して、教員・学生間の信頼関係がより強固になったと思います。

藤田先生が着任されました

令和5年4月に藤田宜久先生が着任されました。専門は数値解析、特に電磁波伝播解析で、担当授業は人工知能などです。



マネジメント工学科



NIHONUNIV_MANAG

新入生オリエンテーションを浅草で実施

令和5年度マネジメント工学科は学部生190名、大学院生博士前期課程6名が入学しました。学部の新入生は4月に親睦を深めるためのオリエンテーションを浅草で実施しました。オリエンテーションは津田沼キャンパスからお台場へ、そこから隅田川をクルーズ船で上り浅草に向かいました。今年は桜の開花が早く、葉桜でしたが東京下町の風景を船上から堪能することができました。浅草に到着、昼食後6人1組に分かれ、仲見世など、浅草の街の中に隠れている様々な問題を仲間で協力し解き、クリアを目指すフォトアドベンチャーラリーを行いました。この時期は外国人観光客も戻り、コロナ前の賑やかな浅草に戻つつある中で、知り合って間もない友達と協力し、楽しんでいました。コロナが落ち着きつつあるなか、卒業までの4年間で有意義な大学生活を送ってください。



オリエンテーションの様子

研究室開設と 教員着任のお知らせ

柿本陽平先生が令和5年4月1日より助教に昇格されました。今年度より柿本研究室が開設され、「数理最適化により様々な社会問題を解決する!」ことを目標として、学生とともに、研究に取り組んでいます。また同日に、井上大成先生が助手として着任いたしました。井上先生は「情報技術を活用した人の特性を推定する研究とその応用」を専門としています。今後のご活躍をご期待ください。

最新情報はインスタグラム、学科ホームページでも掲載していますので、そちらもご覧ください。



井上先生

環境安全工学科



KANKYO_ANZEN

生産工学部校友会に環境安全部会が創設

3月25日に11期生120名が卒業し、学科としての謝恩会を3年ぶりに実施することができました。友人との別れを惜しみつつも4月からの新生活に胸を膨らませているようでした。4月には135名の新入生を迎え、4月6日に新入生学外オリエンテーションとして、川越においてチームで謎解きしながら街に隠されている宝を探すトレジャーロワイヤルを行いました。初対面のメンバーで戸惑っていたチームも、終盤は和気あいあいと打ち解けていました。6月17日には4年ぶりの学部スポーツ大会が開催され、大学生活に慣れてきた1年生はチームワークも良く、さらに絆が深まったように見えました。

今年度から生産工学部校友会に環境安全部会が創設され、部長に1期生の土田来太さんが就任し、6月17日の代議員総会・懇親会の後に親睦会を開催しました。多くの卒業生が初対面でしたが、環境安全工学科同窓生として年齢の垣根を超えて直ぐに意気投合し、三次会までもつれ込む楽しい交流ができました。まだ右も左もわからない状態ですので、どうかあたたかいご指導をよろしくお願い致します。

学生の資格取得も活発です。宅地建物取引士試験に鶴澤研の桑名貴也さん、甲種危険物取扱者試験に鶴澤研の石井佑佳さん、また技術士(建設部門)一次試験に永村研の加藤蒼翔さん、高橋研の宮武大徳さんが合格しました。施工管理技術検定関連では、2級土木施工管理技術検定第一次検定(学科試験)に鶴澤研の福永晃久さん、坂坂研の

伊藤温子さん、伊藤彩夏さん、伊東優合さん、高柳健汰さん、中野智充さん、山本新さん、眞崎智弘さんが合格、2級管工事施工管理技術検定第一次検定に山崎研の黒木龍之介さんが合格するなど、多くの学生が成果をあげています。

教員の活動として、亀井真之介専任講師の「カルシウム、マグネシウム炭酸塩の品質制御と無機蛍光体への転換による製塩副産物の高品位化に関する研究」の業績が、脱炭素社会に適用した高効率な製塩プロセスの構築に貢献するものとして評価され、日本海水学会賞(奨励賞)を受賞しました。また坂坂成司教授執筆の「建築土木教科書1級土木施工管理技士[第一次検定]出るとこだけ!」が翔泳社より、「土木施工管理技士過去問コンプリート2023年版」の1級と2級が誠文堂新光社より発刊されました。

学生および教員が確実に成果をあげており、学科の教育研究活動が今後も活発化していきそうです。



学位記伝達式



スポーツ大会

創生デザイン学科

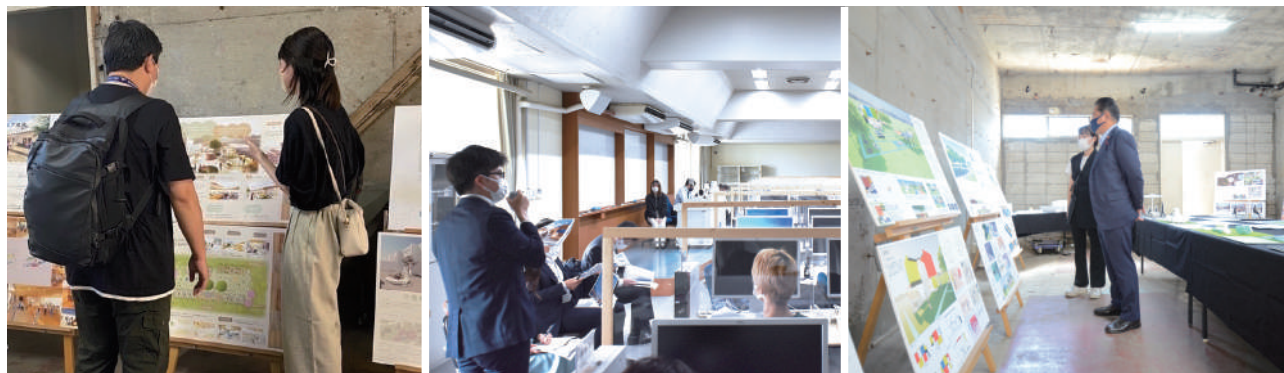


@NUCO.CIT

千葉市、UR都市機構、(株)良品計画、(株)MUJIHOUSEと連携した花見川団地のデザイン

創生デザイン学科では、地域と連携したデザイン教育(PBL)の実践として、昨年度より、千葉市花見川団地を拠点とした地域生活圏の活性化をテーマとした千葉市、UR都市機構、(株)良品計画、(株)MUJIHOUSEとの連携事業を実施しています。3年次設置科目「デザイン製図2」においては、引き続き花見川団地商店街区(第1課題)を課題地として取り上げるとともに、今年度は新たに

団地中央に位置する中央公園(第2課題)を対象とした課題を出題しました。課題出題ならび課題講評会では千葉市、UR都市機構の方々に直接ご説明、ご講評をいただいております。臨場感あふれる演習授業が展開されています。なお、9月上旬には、千葉市庁舎市民ヴォイドにて、2年次設置科目「プロトタイプング演習第3課題:団地のベンチ」と合わせた展示会の開催を予定しております。



教養・基礎科学系

令和5年4月より2名の教員が着任されました

令和5年4月より教養・基礎科学系に助教として着任いたしました、秋田紘長と申します。専門は、応用微生物学と酵素工学です。現在は、生体触媒(微生物・酵素)を利用した機能性化学品の新規生産技術の開発に取り組んでいます。

本学では、「工学基盤実験B」、「工学基盤演習」、「エンジニアリングスキル」等の授業を担当させていただきます。授業や研究活動を通じて学生を技術者や研究者に育て上げ、新たな価値創造の一役を担う人材を国際社会により多く輩出したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

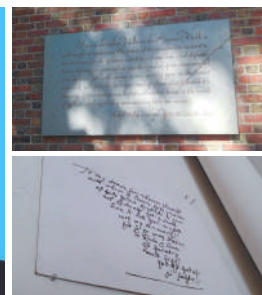


秋田紘長 先生

令和5年4月に教養・基礎科学系の助教として着任いたしました、皆川祐太と申します。専門はアメリカ文学です。特に、17世紀から19世紀半ばまでの詩と思想を、宗教や神学の観点から考察しております。古い時代の研究ですが、アメリカ社会を知る上で欠かすことができない領域だと思います。また、授業では英語を担当しております。学生の皆さんと共に学ぶことを通し、社会に貢献することができるよう、日々精進する所存です。よろしくお願いいたします。



皆川祐太 先生



新型コロナウイルス感染症5類移行後の学部対応

Topics
1

新入生サークル勧誘イベントを開催しました！

令和5年4月7日(金)に実習キャンパス2号館前にて毎年恒例の「新入生サークル勧誘イベント」を開催いたしました。在学生が新入生の入学を歓迎し、公認サークルに誘う行事にコロナ禍前のにぎやかさが戻ってきました。勧誘イベントは新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、令和2年度・3年度はオンライン開催、令和4年度は感染対策の制限のもと開催。今年度は4年ぶりにほぼ制限なく開催されたこともあって在学生が熱心に勧誘して元気な声が響いていました。左右から勧誘のチラシを渡されたり、声をかけられたりして新入生たちは慣れない対面での交流に戸惑いながらも楽しそうな笑みを浮かべていました。



Topics
2

トレーニング講習会を開催しました！&屋内プールの利用が再開されました！！

新型コロナウイルス感染症の集団感染が生じる「3密」を避けるため中止していた「トレーニング講習会」を令和5年6月6日(火)～8日(木)の3日間、津田沼キャンパス体育館にて4年ぶりに開催いたしました。たくさんの在学生が参加しました。



また、コロナ禍に利用を休止していた津田沼キャンパス体育館屋内プールの一般利用が令和5年6月14日(水)より開始されました(生産工学部所属者限定)。



Topics
3

学生食堂に活気が戻りました！

津田沼・実習キャンパス学生食堂ではコロナ禍においてソーシャルディスタンスを確保するため一部の座席が使えなかったり、飛沫を防ぐためのパーテーションや黙食の励行などで感染防止への理解・協力をいただきながら学生に利用いただいておりますが、新型コロナウイルス感染症5類移行後はこれらを撤廃したことや津田沼キャンパス39号館カフェ、2号館売店の営業再開も相まって、利用者数も増加し学生食堂に活気が戻ってきました。また、感染対策として利用を休止していた給茶機の利用再開も食堂利用者からの好評を得ています。

